

電磁気学 II (Electromagnetics II)		4年・通年・2学修単位()・必修 電子制御工学科・担当 玉木 隆幸	
〔準学士課程(本科 1-5年) 学習教育目標〕 (2)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-1 (80%), B-1 (20%)	〔JABEE 基準〕 (d-2a), (c)	
<p>〔講義の目的〕</p> <p>現代社会では、大は送配電システムから小は半導体素子に至るまで、さまざまな規模で電磁気現象は起こり、我々は電磁気現象を電化製品や生産設備等の広い範囲で身近に利用している。電磁気学は、電磁気現象を取り扱う物理学の重要な分野であり、その関連する領域は理学・工学の広い範囲にわたる。特にメカトロニクスを学ぶ電子制御工学科の学生にとっては必須の基礎科目である。本講義では、3年次の電磁気学 I において学習した電磁気現象に関する基礎知識を活用できる能力の習得を目的とする。</p>			
<p>〔講義の概要〕</p> <p>電磁気現象を体系的に理論づけたマクスウェル方程式について述べ、この方程式の磁界に関連する事項について説明する。さらに変位電流について概説する。その後、マクスウェル方程式から波動方程式を導き、電磁波の伝搬特性を説明する。また、電気回路における過渡現象についても説明する。なお電磁気学は、ベクトル解析などの数学的知識も要求されるため、これらについても適宜取り扱う。</p>			
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次までの学習内容、特に数学、物理、電気回路 I, II、電磁気学 I の内容は全て理解しているものとして講義を進めるので、学習内容を復習すること。 ・講義中は必ずノートを取り、レポート課題については自力で解けるようにすること。 (適宜、ノート提出を求めることがある) 			
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： マクスウェル方程式、電流のつくる静磁界を理解できる。 前期末試験： ベクトルポテンシャル、磁性体の境界条件、磁気回路を理解できる。 後期中間試験： 電磁誘導、ローレンツ力、自己・相互インダクタンスを理解できる。 学年末試験： 変位電流、電磁波の方程式、電気回路の過渡現象を理解できる。</p>			
<p>〔評価方法〕</p> <p>単位認定の原則は、シラバスに提示された上記の到達目標をクリアすることである。定期試験の「単純平均」(70%)に、授業への取り組み姿勢とノート作成(15%)、課題レポート提出状況(15%)を加えて最終評価を行う。ここで、取り組み姿勢は、講義中の積極的な発言には加点を行い、迷惑行為(私語など)などが講義中に認められた場合等には減点を行い、これらを合計することにより、その評価を行う。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>「新世代工学シリーズ電磁気学」、オーム社、末田正 編著(3年次の電磁気学 I で使用) 「電気回路要論」、培風館、相田貞蔵・内村圭一・釘澤秀雄 共著(1,2年次の電気回路で使用)</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「基礎の電磁気学(マクスウェル方程式から始める)」、培風館、渡邊靖志 著 「ビジュアルアプローチ電磁気学」、森北出版、前田和茂・小林俊雄 著</p>			
<p>〔関連科目〕</p> <p>電磁気学 I をはじめ、数学(微分積分、微分方程式、三角関数、ベクトル解析など)、物理、応用物理、電気回路、電子工学の各科目との関連性が深く、5年次の解析力学(選択)、電気・電子機器(選択)で学習する内容の基礎となる。</p>			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	磁界, 磁束密度, 電流密度の定義	マクスウェル方程式を書き下すのに必要な磁界, 磁束密度などを定義する. それは3年次に学習した電界や電束密度などを定義したのと同様であることを理解する.	
第2週	マクスウェル方程式	電磁気学の集大成といえるマクスウェル方程式を示す.	
第3週	電流のつくる静磁界	電流の磁気作用を示し, 真空中の磁界での諸現象を説明する.	
第4週	ビオ・サバールの法則	電流による磁束密度の求め方について, 例題を用いて説明する.	
第5週	静磁界の基本法則(積分形)	磁気におけるガウスの法則, アンペールの法則を説明する.	
第6週	静磁界の基本法則(微分形)	静磁界の発散定理, ストークスの定理を説明する.	
第7週	例題・演習	例題・演習問題を通じて, これまでの学習内容の理解を確認する.	
第8週	フォローアップ(事後点検)	前期中間試験の解答・解法を説明し, 理解度を自己点検する.	
第9週	静磁界のポテンシャル	静磁界の基本方程式を示し, ベクトルポテンシャルを説明する.	
第10週	静磁界中の荷電粒子の運動	電荷 q を帯びた粒子が, 静電界 E , 磁束密度 B の空間を速度 v で運動するときに受ける力(ローレンツ力)を説明する.	
第11週	磁性体(1)	物質の磁性を説明し, 磁性体中の磁界を理解する.	
第12週	磁性体(2)	磁性体が磁化率によって分類されることを示し, 強磁性体の磁化現象を説明する.	
第13週	磁性体表面で成り立つ法則(境界条件)	磁性体表面について 磁束密度 B と磁界 H に対する境界条件を説明する.	
第14週	磁気回路	磁気回路と磁界の求め方を説明し, 電気回路との対応を理解する.	
第15週	例題・演習	例題・演習問題を通じて, これまでの学習内容の理解を確認する.	
前期期末試験			
第16週	フォローアップ(事後点検)	前期期末試験の解答・解法を説明し, 理解度を自己点検する.	
第17週	電磁誘導現象	電磁界における相互誘導現象, 自己誘導現象を説明する.	
第18週	導体の運動による起電力	ローレンツ力による誘起起電力を説明する.	
第19週	準静磁的電磁界と電気回路	時間的に緩やかに変化する電磁界における電気回路の解法を説明する.	
第20週	自己インダクタンスと相互インダクタンス	自己インダクタンスと, ノイマンの公式を用いた相互インダクタンスの計算法を理解する.	
第21週	準静磁的電磁界とエネルギー	定常電流や電流ループ間がもつエネルギーを説明する.	
第22週	導体と準静磁的電磁界	導体内の準静磁的電磁界における関係式を示し, 電磁誘導現象の1つである渦電流の現象を理解する.	
第23週	フォローアップ(事後点検)	後期中間試験の解答・解法を説明し, 理解度を自己点検する.	
第24週	変位電流	アンペアの法則を拡張して, 電界の時間的変化により発生する変位電流を導入する.	
第25週	電磁波の伝搬特性	マクスウェル方程式を解くことで波動方程式を導き, 電磁界の変動である電磁波の伝搬特性を理解する.	
第26週	電気回路の過渡現象(1)	受動素子 (R, L, C) で構成された電気回路における過渡現象(スイッチの on/off 後, 定常状態に至るまでの変化)を理解する.	
第27週	電気回路の過渡現象(2)	"	
第28週	電気回路の過渡現象(3)	"	
第29週	例題・演習	例題・演習問題を通じて, これまでの学習内容の理解を確認する.	
第30週	まとめ		
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)